

平成21年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2008 - C - 01

3. プロジェクト名、研究課題、集會名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 防災研究フォーラムによる地震火山研究の推進

英文: Research of earthquake and volcanic eruption based on Disaster Prevention Research Forum

4. 研究代表者所属・氏名 東大地震研究所・吉田真吾

(地震研究所担当教員名) 東大地震研究所・吉田真吾

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日数	旅費支給
都司 嘉宣	東大地震研究所・准教授	サモア沖地震による津波の調査	10/12~10/17	6	
宮城 豊彦	東北学院大学・教授	サモア沖地震によるマングローブ林の破壊状況調査	12/25~1/1	8	

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: 2009年サモア沖地震、津波、マングローブ林

○次の諸点を解明するため、津波の浸水標高の分布、津波による被害のおき方、人の死傷のおき方を調査し、さらにインタビューも実施した。

地震の揺れの直後津波の来襲を予想したか? 警報は有効だったか? 地震後に有効な避難行動を行ったか? 1917年の地震津波など、過去の津波被災例は伝承されているか? また避難行動に2004年インドネシア津波等の知識は生かされたか? 地震発生時、あるいは津波来襲時、異常な音、雲や発光など観察されなかったか、海岸線の後退や地盤隆起が見られないか。

○サモア地震における津波災害は、太平洋島嶼地域の各地で発生しうるものである。島嶼民達は、伝統的にマングローブ林の背後に住居を構えており、今回の津波とマングローブ林の防災機能を定量的に評価することで、海岸線の津波防災機構を解明することに貢献するとともに、近年、その必要性が指摘されるマングローブ造林が持つ環境防衛的な意義を明確化した。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

（*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと）

防災研究フォーラムシンポジウム 「気候変動と激甚化する自然災害」

H22.3.20, 京都大学宇治キャンパス おうばくプラザ「きはだホール」

第1部 地震・津波による激甚災害調査報告

(1) 2007年ソロモン諸島地震津波、および2009年サモア諸島地震津波の教訓

都司嘉宣（東京大学）

報告書(別添)：

2009年サモア諸島沖地震津波に関するマングローブの被害調査

東北学院大学 宮城豊彦